

令和5年度学校経営計画

学校名 東広島市立入野小学校
 学校長 竹野 政彦

I 学校の状況

| | | | | | |
|------------|---|--------|------|------|-----|
| 学級数 | 9 学級 | 児童・生徒数 | 165名 | 教職員数 | 19名 |
| メールアドレス | nyuno-sho@city.higashiroshima.hiroshima.jp | | | | |
| ホームページアドレス | http://www.city.higashiroshima.lg.jp/school/nyuno-sho/ | | | | |

II 教育目標

| |
|----------------------|
| 「夢と志」をもち主体的に生きる児童の育成 |
|----------------------|

III 経営理念（ミッション・ビジョン）

| |
|--|
| <p>ミッション：自他を尊重し、自ら考えて、よりよく行動できる児童の育成 かんがえる子・・・自分の考えをもち、友だちと協力して問題を解決する。 がんばる子・・・目標の実現に向けて粘り強く取り組む。 やさしい子・・・相手のことを考えて表現する。 けんこうな子・・・基本的な生活習慣が身に付いている。</p> <p>ビジョン：信頼される学校づくり ・行くことが楽しくなる学校 ・環境の整った美しい学校 ・保護者や地域に開かれた学校</p> |
|--|

IV 中期経営目標及び短期経営目標

| 目項 | 点重 | 中期経営目標 | 短期経営目標 | 目標達成のための方策 | 評価項目 |
|---------|----|---|---------------------------|--|---|
| 確かな学力 | 1 | 主体的に学ぶ楽しさが味わえる授業づくりをすることで、確かな学力をつける。 | ☆学力の定着と向上 | ○ICTを効果的に取り入れた授業を行う。 ○スキルタイムを計画的、継続的に実施し、支援の必要な児童への指導を重点的に行う。 | ・NRT、標準学力調査標準スコア（国語・算数） 【50%以上】 |
| | | | ○主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善 | ○教科と特別支援教育の考え方を融合し、「問い」を引き出す工夫やグループ学習を効果的に取り入れて授業を行う。 ○生徒指導の三機能を生かした授業チェックリストを活用し日々の授業改善を行う。 ○地域に対して実施していることを自覚させ、表現したくなるような工夫を行う。 | ・授業では課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。 【児童評価 85%以上】 ・自分の地域の良さを表現している。 【児童評価 80%以上】 ・児童が表現したくなるような指導の工夫をしている。 【職員評価 100%】 |
| 豊かな心 | 2 | 自己有用感や社会性を高め、豊かな心を育む。 | ○児童の協働性と自己有用感の向上 | ○縦割り班活動や行事等を通して、他学年のよいところを見つける。また、よかったところを手紙で表現するなど、他学年同士が交流できる場を設ける。 | ・みんなで話し合って決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことがある。 【児童評価 90%以上】 |
| | | | ☆東広島スタンダードの定着（重点項目 挨拶・返事） | ○委員会活動や高学年を中心に、あいさつレベルが向上するような取組を呼びかける。また、高学年が手本を見せるよう促す。 | ・あいさつレベル4以上の児童 【児童評価 80%以上】 【職員評価 70%以上】 |
| 健やかな体 | 3 | 基本的な生活習慣の定着や健康や安全について理解し、健やかな体をつくる。 | ○運動や外遊びの奨励 | ○委員会活動を中心に、外遊び奨励の全校での取組を企画・実行するとともに、環境整備を進める。 | ・運動や外遊びが好き。 【児童評価 85%以上】 |
| | | | ☆メディア利用の適正化による基本的な生活習慣の定着 | ○メディア利用に関する指導やメディア教室を実施し、児童にメディアについて考えさせる。 | ・メディア利用2時間以内 【児童評価 90%以上】 |
| 信頼される学校 | 4 | 教職員一人一人の働き方に対する意識の醸成を図り、児童と向き合う時間を確保する。 | ○業務改善の推進 | ○管理職と教職員との対話を通して教職員の改善意欲を高める。 ○業務の適正化により、教職員が児童と向き合う時間を増やす。 | ・自分が掲げた目標に向かって仕事ができている。 【職員評価 90%以上】 ・児童と向き合う時間（授業準備等含む）が確保できている。 【職員評価 85%以上】 |
| | | | ○地域・保護者に開かれた学校の実現 | ○アンケート（地域・保護者）の分析から改善計画・実施を図り、児童の育ちを地域・保護者に発信する。 | ・学校は、学校の様子をわかりやすく伝えている。 【保護者評価 90%以上】 |

V 学校評価

(1) 学校評価システムの組織（構成者を含む）

| | |
|---------|-----------------------------|
| 自己評価委員会 | 校長 教頭 教務主任 生徒指導担当 研究主任 保健主事 |
| 学校運営協議会 | 学識経験者 P T A 地域住民 校長 教頭 |

(2) 自己評価及び学校関係者評価の実施計画（公表方法を含む）

| | |
|-----------------|--|
| マネジメントサイクルによる改善 | 自己評価委員会による自己評価表の作成（4月）⇒説明（保護者5月、学校運営協議会6月）⇒実践 ⇒保護者・児童アンケート等の結果分析を参考にして、全教職員による自己評価（10月、2月）⇒改善方策の明確化 ⇒学校運営協議会（10月、2月）⇒実践 ⇒東広島市教育委員会への報告 |
| 公表方法 | WEB、たより 等 |